

解説

川崎市の 上下水道事業と推進工法

こばやし こうた
小林 康太

川崎市
上下水道局下水道部
下水道計画課・下水道計画課長

やまはら ひさや
山原 久弥

川崎市
上下水道局水道部
水道計画課・水道計画課長

1 発展を続けるまち川崎市

川崎市は、大正13年（1924）に川崎町と御幸村、大師町が合併して誕生しました。その後、周辺の町村を編入しながら発展を続けてきました。昭和20年（1945）には川崎大空襲により川崎の工場群や中心地は焼け野原となりましたが、その後、戦災復興を経て高度成長期

を迎え、臨海部では埋め立て地の造成が行われ、石油化学工業などの重化学工業が集積し、市内の製造業と一体となって日本の経済をリードしながら急激な発展を遂げています。急激な経済成長や開発の一方で、公害問題が表面化したことから、当市は環境問題に取り組むとともに、市民生活を優先したまちづくりを進めました。

このようにまちづくりを進めた結果、現在でも人口が増

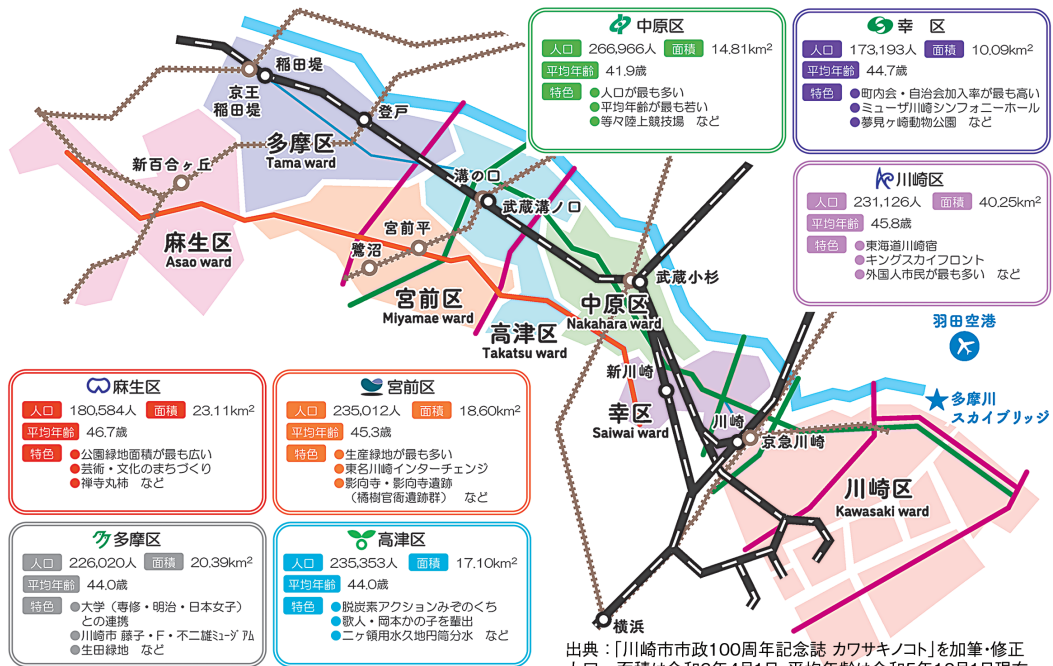


図-1 川崎市の概要

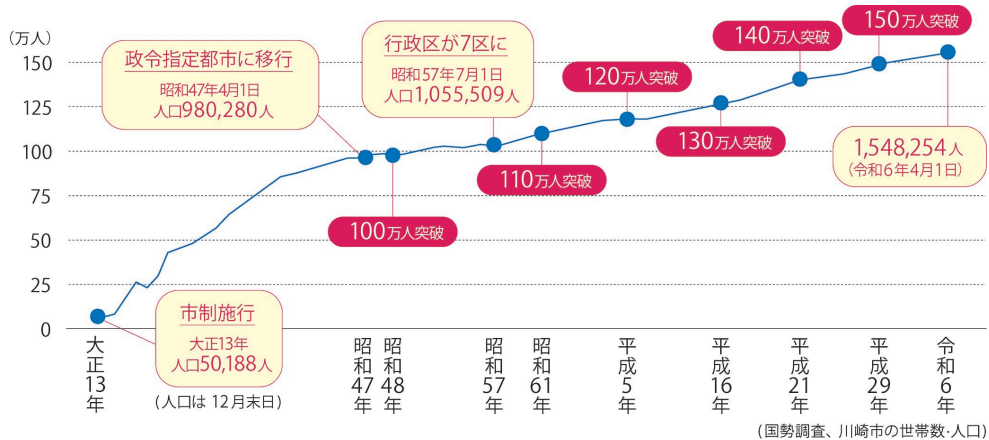


図-2 川崎市の人口の推移

加を続けており、文化・芸術やスポーツへの取り組みも盛んとなっています。また、産業の発展とともに表面化した公害問題へも積極的に取り組み、現在では豊かな未来を創造する地球環境都市かわさきを目指し、新たな環境課題である脱炭素社会実現への具体的な取り組みを着々と進めています。

川崎市は、横浜市と東京都に挟まれた細長い地形であり、交通アクセスに優れ、若い世代が多く暮らしています。現在では、144.35km²の面積に7つの行政区が配

置され、約155万人の市民が暮らす、政令指定都市の中で6番目に人口が多いまちとなっています(図-1、2)。

2 水道事業の概要

川崎市の水道事業は、大正10年(1921)に多摩川の表流水を水源とした創設事業に始まり、当市の発展とともに増加する水需要に対応するため、8次の拡張事業を進め、昭和56年(1981)3月には日量1,026,000m³



図-3 水道水源と施設配置